

算出例（建設工事等の場合）

【ケース1】

順位	入札者	入札金額	摘要
1	A	28,000,000	落札
2	B	30,000,000	
3	C	30,500,000	
4	D	30,700,000	
5	E	30,750,000	
6	F	30,800,000	
7	G	30,850,000	
8	H	30,900,000	
9	I	30,950,000	
予定価格	35,000,000	事前又は事後公表	
算定数	6	$9者 \times 0.6 = 5.4$ (注1)	
平均額	30,125,000	$180,750,000 \div 6$	
最低制限価格	27,112,500	$30,125,000 \times 0.9$ (注2)	
入札結果	失格者 落札者	なし A	

【ケース2】

順位	入札者	入札金額	摘要
1	A	25,000,000	失格
2	B	30,000,000	落札
3	C	30,500,000	
4	D	30,700,000	
5	E	30,750,000	
6	F	30,800,000	} 6位が同価格
6	G	30,800,000	
8	H	30,900,000	
9	I	30,950,000	
10	J	30,950,000	
予定価格	35,000,000	事前又は事後公表	
算定数	7	$(10者 \times 0.6) + 1 = 7$ 同価入札の1を加算	
平均額	$\frac{29,792,857}{(注3)}$	$208,550,000 \div 7$	
最低制限価格	26,813,571	$29,792,857 \times 0.9$	
入札結果	失格者 落札者	A B	

【ケース3】

順位	入札者	入札金額	摘要
1	A	28,000,000	落札
2	B	30,000,000	
3	C	30,500,000	
4	D	30,700,000	
5	E	30,750,000	
予定価格	35,000,000	事前又は事後公表	
算定数	5	入札数 2者～5者の場合	
平均額	29,990,000	$149,950,000 \div 5$	
最低制限価格	26,991,000	$29,990,000 \times 0.9$	
入札結果	失格者 落札者	なし A	

【ケース4】（指名競争入札）

順位	入札者	入札金額	摘要
1	A	28,000,000	落札
2	B		辞退
3	C		辞退
4	D		辞退
5	E		辞退
予定価格	35,000,000	事前又は事後公表	
算定数	1		
平均額			
最低制限価格	23,333,333	予定価格の3分の2	
入札結果	失格者 落札者	なし A	

(注1) 算定数に1未満の端数があるときは、その端数を切り上げる。

(注2) 算出例の入札は建設工事のため10分の9を乗じているが、業務委託等の入札の場合は10分の8を乗じる。

(注3) 平均額及び最低制限価格に1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てる。

【ケース1】 算定数は9者に10分の6を乗じて得た値「6」(注1参照)であり、入札額の低い方から6位までの平均額に10分の9（業務委託等の入札の場合は10分の8。注2参照）を乗じて得た金額をもって最低制限価格とする。落札者は、最低価格者のAである。

【ケース2】 算定数は10者に10分の6を乗じて得た値「6」であるが、第6位の入札が同価格であったため同価格の入札も算定数に含め「7」とする。AからGまでの平均額に10分の9を乗じて得た金額をもって最低制限価格とする。Aが最低価格者であるが、最低制限価格を下回っているため失格となり、Bが落札者となる。

【ケース3】 算定数は入札数「5」であり、すべての入札の平均額に10分の9を乗じて得た金額をもって最低制限価格とする。落札者は最低価格者のAである。

【ケース4】 指名競争入札において、5者のうち4者が入札参加を辞退したため、1者による入札となった。予定価格に3分の2を乗じて得た金額をもって最低制限価格とする。落札者は予定価格の制限の範囲内で最低制限価格以上の価格をもって入札したAである。（ただし、当該入札を一般競争入札で行う場合、入札に参加しようとする者の数が2者に満たないときは、入札を執行しない。）